

数学の学習法

S 創学舎ニュース

Sougakusha News

No.458

私が最近読んでいる本のあとがきに、

「将来何の役に立つのか」なんていう答まで、憎たらしい大人たちに教えてもらうのは癪だと思いませんか？「〇〇の役に立つ、だから勉強しろ」なんて決めつけられたら、ムカつくでしょ。(中略)だから、すぐに「何の役に立つのか」と大人に尋ねるのではなく、今イヤイヤ勉強していることを「何の役に立ててやろうか」と自分自身の中で常に考え、将来楽しみにしていけるような人間を目指してみるっていうのはどうですか。」とありました。

ちなみに本は『浜村渚の計算ノート』シリーズの第二巻。(私は全十二巻出ているうちのまだ三巻目を読み終わったところです。)非常に読みやすいうえに数学に関するうんちくがちりばめられていて、なんとなく読むこともできるし、しつかり考えながら読むこともできるので、数学の得意・不得意に関わらず楽しく読めます。テスト前でないならぜひ第一巻を読んでみてください。



青柳碧人(あおやぎあいと)著

講談社文庫

数学の学習法はこれまでに何度も書いてきたので、今回は改めて数学に向かうときの気持ち・姿勢の話をしようと思います。

新しく学習する内容は、きちんと理解してから訓練と暗記を繰り返していきます。中には理由は分からなくても先にやり方を学んでそのあとから意味が分かってくるものもありますが、基本は理解が必要で、何を求めたくてその計算をしているのか？意味も分からずただ真似をしているとあとで利用できない知識になります。理解しておくと後からでも使える知識になります。

簡単な例を挙げます。「二キロメートルの道のりを十分で進みました。分速何メートルですか？」という問題。速さを求めるのに「(速さ)＝(道のり)÷(時間)」と公式を丸暗記していると、道のりを求める式と時間を求める式がごっちゃになり、変な計算をすることがあります。また単位を考えずに、ただ式に当てはめ間違っパターンもあります。しかし、算数・数学が得意な人、理解が早い人はその式を大事にしているわけではなく、なぜその式になるかを理解しています。たとえば、「分速」というのは一分あたりに進む道のりのことである。」この理解が速さの計算を格段に楽にします。先ほどの問題では、全部で二キロメートル、すなわち二千メートルを十分で進むのだから、一分では当然二百メートルずつ進むのだということが分かります。また、「分速二百メートルで進む人が三分進んだらどのくらい進みますか？」と聞かれても、すぐに「一分で二百メートル進むのだから、もちろん六百メートルだ」と分かるわけです。

話が長くなりましたが、数学が苦手な理解を嫌がっている人は、時間をかけている割に効果の低い勉強法になっています。ぜひ理解を伴う学習を

心がけてください。理解できないときは教科書や解説をよく読む。よく読んでも分からなければ、せっかくな創学舎にきているのだから、質問する。この姿勢気持ちだけでなく行動もで勉強すると、数学が分かる、楽しい、点数がとれるようになる、という好循環が生み出せるでしょう。一緒に頑張ってください。

(松永)

創学舎パーソナルの紹介

こんにちは。創学舎パーソナルおたかの森教室の矢上です。今回は、創学舎パーソナルについてご紹介いたします。紹介するのは、全部で五点になります。

まず、一つ目は、創学舎パーソナルの学習カリキュラムについてです。創学舎パーソナルの教室には、小学一年生から高校三年生までの幅広い年代の生徒が通塾しています。また、通塾している生徒のニーズは個々に異なります。そこで、我々は生徒のニーズに応えられるように、入塾前に学習指導に関する面談を実施し、学習に対する要望をお聞きした後、個々の生徒にあった学習カリキュラムを提案し、授業を行っています。

では、具体的にどのようなニーズがあるかというところ、たとえば、定期テスト対策です。多くの学校では定期テストの二週間前にテスト範囲が学校より配布されます。そのタイミングで、テスト範囲の内容の復習を行います。その際、生徒の苦手分野を中心に取り組んでいきますので、テスト前にはオススメです。

他には、英検・数検などの検定対策も行ってい

ます。検定対策の場合、だいたい検定の一ヶ月前から専用の教材を用いて、検定に出題される初出事項の説明や、合格に必要な大事なポイントの解説などを行います。

その他、様々なニーズにも柔軟に対応しています。もし、学習面でお困りの方がいらつしやいましたら、一度ご相談ください。我々、パーソナルの教室長が親身に対応いたします。

二つ目は、創学舎パーソナルの授業システムについてです。創学舎パーソナルの授業は、一コマ(二回の授業)が五十分で、月曜日から土曜日の午後五時から午後十時の時間帯で好きな曜日、時間帯を選ぶことができます。そのため、他の習い事や部活動で忙しい方には、授業が組み立てやすいのでオススメです。

また、授業の科目も自由に選択することができます。たとえば、苦手な数学の克服を目指したい場合、数学のみ選択することができます。また、理社が苦手なので、理社だけを希望することもできます。このように、個別指導の授業は、生徒のニーズとスケジュールに合わせたオーダーメイドの授業となっています。



▲授業風景(パーソナルおたかの森教室)

三つ目の授業スタイルですが、講師一名につき生徒三名の個別指導を行っています。講師は同時間帯に三名の生徒の授業を担当します。教えるときはもちろん、一対一になりますので、講師の指導を受けている時間以外は、主に問題演習を行っています。これは、説明を受けた内容がきちんと理解できているか確認するために必要な取り組みになります。指導→演習→指導、この循環がうまくいくと、学習内容の定着が図れ、学力向上が望めます。

四つ目は、創学舎パーソナルで勤務している講師についてです。教室に在籍している講師は、主に創学舎の卒業生です。学生時代に培った創学舎メソッド(学習に向かう姿勢やノートのとり方、勉強方法など)を生かした指導を行っています。また、講師は生徒の質問に対応しています。創学舎パーソナルに通う生徒には苦手科目があり、理解するのに時間がかかる方がいらっしゃいます。その場合は、分かるまでとことん質問に付き合います。また、自発的に質問ができない方には、問題演習を終えた後や、宿題回収の際に分からなかった箇所がないか、毎回確認するようにしています。これは、分からない箇所をそのままにしないためです。きちんと理解し定着を確認してから次の単元に進みます。

最後に、小テストについてです。創学舎パーソナルでは、授業内に無料の小テストを実施しています。授業で解き方を学び、その場で問題演習を行って解けたとしても、しばらくすると解き方を忘れてしまいます。そこで、解き方を忘れないように、既習範囲の小テストを行います。また、漢字や英単語のテストも実施しています。漢字や英単語はなかなか一人で取り組むのは大変です。そ

こで、小テストを実施すると、定期的に漢字や英単語を学習する時間が設けられ、それらの定着が図られていきます。結果、定期テストや入試での点数アップが期待できるのです。

以上、五つ紹介いたしました。今回紹介した内容以外にも、たくさん創学舎パーソナルのいいところはあります(たとえば、自習スペースなど)。もし機会があれば、また創学舎パーソナルの良さを紹介していきたいと思えます。たくさんの方々から、自己実現のお手伝いができます。これからも努めてまいりますので、どうぞよろしくお願いたします。

(矢上)



▲自習スペース(パーソナルおたかの森教室)

自己有能感

今回のテーマは自分語りの上に恥ずかしい話になる。私は中学一年生・二年生の頃、定期テストや模試で、皆さんに自慢できるような点数を取ることなく、かつ自分から勉強を進んでやるタイプの子供でも無かった。小学生の頃は学校の勉強に

ついていけないわけではなかった。危機感は一時的になかった。その後、中学生になるタイミングで引越すことになった。引越す前は埼玉の名門校が近くにあるところで、教育熱心なエリアであった。転校先は公立の中学校であったが、生徒たちの学力が高く、また、勉強熱心な家庭が多かったがゆえに、どうしても定期テスト等の点数により、劣等感が重くのしかかってくるようになった。もともと勉強自体そこまで嫌いではなかったのだが、いかんせん、周りの同級生に引け目を感じてしまい、なかなか勉強に対するモチベーションが上がらなかった。

特に得意科目もないまま定期テストの点数も平均点すら取れずに、中学一年生の学年末テストを迎えた時の話だ。いつもどおり結果には期待していなかったのだが、まぐれで英語は高得点が取れた。その時の記憶は今でも鮮明に覚えている。人は嬉しいことはいつまでも忘れないものだ。恥ずかしながら私はそこで「自分は英語が得意なのかもしれない」と錯覚を起こした。これが引き金となり、進級後の二年生の定期テストでも英語だけは高得点を取ることができた。ここで初めて勉強に対して「自己有能感」が高まり、わずかながら劣等感から脱出することができたのだ。

しかし、中学二年生の一学期期末テストで自己史上最悪の点数を理科で取ってしまった。親もどうとう学習塾に入れることを決意した。私は前述のとおり勉強が嫌いだっただけではないので、学習塾に入ることは否定的ではなかった。結局、家の近くの集団の学習塾に入塾した。教室長その他の講師の授業前後の話が面白く、人柄に惹かれた。そして、学校とは違い授業も分かりやすく、問題が解けたら何より「褒めてくれる」場であったた

め、私にとって「自己有能感」が高まる心の居場所になっていった。その学習塾に入ってからはおかげさまで成績もうなぎ上りになり、中三の最初の定期テストでは、自分が中学入学時からかかっていた五科合計目標点によりやく達した。その学習塾のおかげで今の自分があると思うと、感謝に堪えない。

これを読んでいる方も、やはり褒められた出来事、嬉しかった出来事は鮮明に覚えていられるのではないだろうか。私は学習塾の講師として、



当時の私のように勉強に困っている子供を救いたい、勉強が好きになるきっかけを作りたいと、その一心で仕事をしている。

なかなか自分の子供の成長を認めるのは難しいこともあるが、お子様の定期テスト・模試の点数が上がったときは、褒めてあげるとお子様の「自己有能感」が高まると思う。ぜひ実行してみてください。

(小澤)

◆「創学舎ニュース」バックナンバーのご案内◆

「創学舎ニュース」のバックナンバーは、創学舎のHPで最新年度のものを公開しております。



(左のQRコードから入ってご覧いただけます。)

たとえば、今号は「数学の学習法」を取り上げておりますが、他の

科目の学習法をご覧になりたい場合、国語は9月号、英語は10月号、理科は11月号に掲載しております(社会は次号となります)。